会津若松ザベリオ学園小学校　学校便りＮＯ．６

XAVERIO

平成２９年９月５日（火）　発行
発行責任者：　副校長　馬場　泰

NIE　がんばっています！

NIE：Newspaper　in　Education

今年の６月から県内私立小中学校全クラスに福島民報が届いています。新聞ラックも各学級ごとに贈呈していただきました。これは福島民報社の「ふくしまの若い力　新聞で応援キャンペーン」企画に賛同した県内外の融資企業・金融機関からのプレゼントです。

先日、全国学力・学習状況調査結果が公表されました。新聞を読む子どもの平均正答率が読まない子どもより高いという報告がされています。本校の６年生の各教科の平均正答率は国語、算数共に全国・県平均を大きく上回っています。本校では、昨年度から全学年で NIE 教育に取り組み、できるところから新聞に親しませています。NIE ワークシートを使い、興味のある記事や写真等を選んで自分の感想を書く活動を継続しています。今後、民報号出前授業や NIE の各種教育方法を研修し、より高い総合的な学力をつけたいと思います。

みんなのひろば

さて、６年生の子どもたちは１学期に国語の授業で新聞の投書欄についての学習をしました。そこで書いた意見文を福島民報の読者コーナー「みんなのひろば」に投稿しました。その結果９月５日現在で７人の文章が掲載されました。子どもの視点で現代社会のさまざまな状況をとらえ、自分の意見を述べた文章です。２回に分けてご紹介しますので、ぜひじっくりとお読みください。

パンダたん生に「命とは」考える

会津若松市・中島　直哉（小学生　12）

新聞やテレビで、上野動物園で生まれたパンダの赤ちゃんがすくすく育っていることが話題になっています。

ぼくは、命が生まれるということは、とても喜ばしいことだと思っています。でもぼくは、このニュースを見て疑問に思ったことがあります。

それは、なぜ神様から授かった大切な命をうばおうとする者がいるのだろうかということです。世の中ではいろいろな事件が起きています。たとえば空腹を満たすため、何かを生産するためなど生きるために必要だから命をうばうのなら否定しませんが、必要もないのに、ほかの人の命をうばうことはおかしいと考えます。

たしかに、うらみがあって人を殺そうとする人はいるでしょう。でも、そうしてせいせいしたとしても、後からこうかいすると思います。限りある命を大切にして、命とは何かを考えることが大切だと思います。

パンダの赤ちゃんがたん生した記事を読んで、命について考えさせられました。

大きな結果生む努力の積み重ね

会津若松市・佐藤　さき（小学生　11）

新聞紙上で、将棋の藤井聡太四段が、デビューから二十九連勝したことが話題になった。私は、藤井四段が二十九連勝できたのは、小さい時から努力を積み重ねてきたからだと思う。

藤井四段は、祖母からもらった将棋セットがきっかけで、将棋を始めたそうだ。小さな時のきっかけが、こんなに大きな結果を生むなんて、おどろいた。自分の好きなことに集中して取り組むということも、大きな結果を得ることができることにつながると思う。

私も実際に経験したことがある。私は、父が使っていたミシンを使いたいと思ったのがきっかけで、さいほうを始めた。さいほうが好きで、いろんな物を作り続けているうちに、ワンピースまで作ることができるようになった。

確かに、運で勝ち続けるということもあるかもしれない。でも努力が報われて、運が味方につくということもある。決して運だけで勝ち続けることはできないと思う。努力を積み重ねていくことが大事で、大きな結果を生むことができるのだ。

才能に加え努力　藤井四段に学ぶ

会津若松市・児玉　怜子（小学生　12）

私は、将棋の藤井聡太四段がタイトルに挑戦しているという記事を読んだ。テレビでも報道されていることもあって、気になった。

デビューしてからの連勝は二十九でストップしたが、タイトルへの挑戦を期待されるほどになったのは、努力があるからこそのことだろう。だから、私は藤井四段がこれからタイトルを取るだろうと思う。

「天才少年」と書かれていた。しかし「天才」という能力だけでは「努力」にいつか負けてしまうだろう。だからこそ、藤井四段は期待されているのではないだろうか。天才だけで勝ち進めていたら、プロという壁にぶつかり、限界が来てしまい、立ち止まってしまうからこそ、努力も必要なのではと、私は思った。

現在、将棋界は注目されている。そして、藤井四段はより、注目を浴びている。このような記事を読んだことで、自分にも勉強やスポーツに努力することが大事だということに気付かされた。

この記事を読んだチャンスを、私は生かしていきたい。

苗植え体験通し　農家増やしたい

会津若松市・高橋　六花（小学生　11）

この前の福島民報に、「農業の楽しさ実感」という記事がのっていました。磐梯町の磐梯二小の三、四年生児童二十五人が、エゴマの苗植え体験をした記事でした。

児童たちは、町内の農家の畑約〇・三ヘクタールに、約千本の苗を植えたそうです。児童たちは声を掛け合いながら、一本ずつ丁寧に苗を植え込んでいたと書いてありました。

この畑を提ぎょうした農家の方は、きっとうれしかったのではないかと思いました。児童たちが植えたエゴマの葉は、町内で開かれるバーベキュー祭りで使用されるとのこと。実は十月下旬にしゅうかくするようです。

このような農業体験を増やして「農業って楽しいんだな」「もっとやりたい」と思ってもらい、しょう来、農家になりたいなと思う人が一人でも多くなってほしいなと思いました。

社会の授業で年々、農家が減ってきていると勉強しました。だから、体験を通して、農家を増やしたいと思います。

復興ドッグラン　浪江の男性偉業

会津若松市・安部美沙希（小学生　11）

先日の福島民報に「犬好き集う場に」という、浪江町の男性が自宅の敷地内に「ドッグラン」を造った記事がのっていました。大変興味を持ちました。

まず、私はこの記事を読んで、「とてもすごい人だ」と思いました。私もこの方のように、動物が好きです。自分が好きな犬のために、手作りのドッグランを造ったことは、とても素晴らしいことだと思います。

自分の地元に友達やたくさんの人が来るようにと、自宅の敷地内に、それも自分でお金を出して施設を造るということはかんたんにできることではありません。

家にドッグランを造ることぐらい、かんたんにできると言う人がいるかもしれません。ですが、この方がしたことを、自分でしようと思っても、それを実際に行動に移して実行できる人は多くないと思います。

浪江町は東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故により、大きなひ害を受けました。復興を願って、地元のためになるドッグランを造ったことは、すごい偉業だと感じました。

みんなのひろば

今後、みんぽう出前塾を申込み、さらに新聞に親しみ、新聞を活用した読解力や表現力を育成したいと考えています。